

三重大学における大学間国際交流事業

三重大学生物資源学部

伊藤 信孝

- 留学生数—約240名
- 中国人留学生が多数
- 大学レベル協定大学 12大学
- 学部間協定大学 7大学
- 大学間国際交流事業
 - ・ 短期留学—受入れと派遣 問題点—単位互換が進まず修学年限が重複
UMAP制度による短期留学生受け入れ
 - ・ 語学研修 英語—ミシガン州立大学→タスマニア大学
独語—エアランゲン大学
語学研修は業者委託でも可能、さもなくば引率教官に余程の交流意欲が必要
語学研修は大手大学の最大のビジネス
 - ・ ヴァーチャル・ユニバーシティ
—三重大学・岩手県立大学・ノースカロライナ大学ウilmington校
 - ・ SCSによる遠隔授業—国内大学、研究機関
 - ・ 科学・技術英語での留学生による支援と友好相互理解
 - ・ 学部長主催による留学生懇談会（年1回）
 - ・ 学部主催国際セミナー／文化交流フォーラム（2ヶ月に1回）

3 大学国際ジョイント・セミナー・シンポジウム

趣旨—若手研究者・学生・院生に国際感覚を植え付け、人類共通の課題に対する認識のギャップを埋め、戦争抑止力としての人的ネットワークを構築する。同時に論文作成技法、口頭発表技法、プレゼンテーション資料の作成技法の習得。グループ参加に於ける指導性、協調性、責任感ある人材の育成。特にアジア・太平洋域に於ける大学間連合体を作る。将来的にはベトナム、インドネシア、マレーシア、フィリピン等ASEAN諸国から環太平洋にかけた規模にしたい。

参加母体—三重大学との協定校である中国の江蘇理工大学、タイのチェンマイ大学と毎年定期的に国際ジョイント・セミナー・シンポジウムを開催し、学生20名を引率し参加している。毎年いずれかの大学がホスト役を引き受ける。

1994年に創設し1999年まで第6回を数える。

2000年10月は三重大学で第7回を開催予定。

テーマ—地球規模の課題（テトラレンマの攻略）人口・食料・エネルギー・環境

文理いずれの分野からも参加を可能にしている。

対象—学生・院生・若手研究者・引率教官＋若干の事務官

経費—ホスト大学は他の来訪大学を最寄りの空港又は駅に出迎えた後、イベント終了後最寄りの空港又は駅まで送り出すまでの経費一切を負担する。逆に訪問する大学は自国内旅費、往復の渡航費を大学で負担し、イベント終了後の小旅行は個人負担として区別している。

セミナー・シンポジウムでの言語—英語

参加の条件：テーマに関連の論文を英語で作成し、英語で口頭発表し、質疑応答する。帰国後速やかに報告書を所定の様式にまとめて提出が可能なこと。応募者多数の時は面接試験を実施。

協定校として進行中の大学

カセサート大学：大学間一般協定（1999年12月）

スラナリー工科大学：学部間協定締結（2000年3月）

コンケン大学：大学間協定締結の予定（2000年3月）